

令和8年2月15日(日)施行

第221回 全経簿記能力検定試験 2級 商業簿記 解答

第1問

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	未払家賃	200,000	支払家賃	200,000
2	普通預金	6,000,000	資本金	3,000,000
	株式交付費	150,000	資本準備金	3,000,000
			現金	150,000
3	リース資産	900,000	リース負債	900,000
4	建設仮勘定	5,000,000	普通預金	5,000,000
5	棚卸減耗費	60,000	繰越商品	96,000
	商品評価損	36,000		
6	損益	650,000	繰越利益剰余金	650,000
7	未払法人税等	180,000	納税準備預金	180,000

第2問

期首売掛金	期首資本金	期末繰越利益剰余金	売上総利益
¥ 495,000	¥ 1,348,000	¥ 740,000	¥ 3,586,000

第3問

商 品 有 高 帳

T 商 品

令 8 年	摘 要	受 入			払 出			残 高			
		数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	
1	1	前月繰越	960	2,480	2,380,800				960	2,480	2,380,800
	5	鳥 取	1,600	2,640	4,224,000				2,560	2,580	6,604,800
	7	鳥 取				160	2,640	422,400	2,400	2,576	6,182,400
	12	静 岡				1,600	2,576	4,121,600	800	2,576	2,060,800
	18	島 根	2,400	2,240	5,376,000				3,200	2,324	7,436,800
	22	山 梨				2,500	2,324	5,810,000	700	2,324	1,626,800
	24	山 梨	200	2,324	464,800				900	2,324	2,091,600
	31	次月繰越				900	2,324	2,091,600			
			5,160		12,445,600	5,160		12,445,600			

注 摘要欄には、取引先を記入すること。ただし、「〇〇株式会社」の株式会社は省略し、「〇〇」でよい。

純 売 上 高	売 上 原 価	売上総利益 (粗利益)
¥ 13,420,000	¥ 9,466,800	¥ 3,953,200

第4問

1	ウ	2	ア	3	エ
---	---	---	---	---	---

第5問

精 算 表

勘 定 科 目	残高試算表		整 理 記 入		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	657,000		18,000				675,000	
当 座 預 金	590,000						590,000	
電 子 記 録 債 権	490,000						490,000	
売 掛 金	630,000						630,000	
貸 倒 引 当 金		6,000		16,400				22,400
売 買 目 的 有 価 証 券	612,000			28,000			584,000	
繰 越 商 品	535,000		560,000	535,000			560,000	
仮 払 法 人 税 等	85,000			85,000				
備 品	1,000,000						1,000,000	
備 品 減 価 償 却 累 計 額		375,000		125,000				500,000
買 掛 金		408,000						408,000
仮 受 金		310,000	310,000					
借 入 金		760,000						760,000
資 本 金		1,500,000						1,500,000
資 本 準 備 金		200,000						200,000
利 益 準 備 金		120,000						120,000
繰 越 利 益 剰 余 金		196,000						196,000
売 上		5,309,000				5,309,000		
受 取 手 数 料		523,000	39,000	15,000		499,000		
仕 入	2,537,000		535,000	560,000	2,512,000			
給 料	1,136,800				1,136,800			
支 払 家 賃	490,000			40,000	450,000			
水 道 光 熱 費	587,000				587,000			
消 耗 品 費	342,000			31,000	311,000			
支 払 利 息	15,200		15,200		30,400			
	9,707,000	9,707,000						
(前 受) 金 雑 (益)				310,000				310,000
				3,000		3,000		
貸 倒 引 当 金 繰 入			16,400		16,400			
減 価 償 却 費			125,000		125,000			
有 価 証 券 運 用 損 益			28,000		28,000			
(消 耗) 品			31,000				31,000	
(前 受) 手 数 料				39,000				39,000
(前 払) 家 賃			40,000				40,000	
(未 払) 利 息				15,200				15,200
法 人 税 等			165,000		165,000			
(未 払) 法 人 税 等				80,000				80,000
当 期 純 (利 益)					449,400			449,400
			1,882,600	1,882,600	5,811,000	5,811,000	4,600,000	4,600,000

令和8年2月15日(日)施行

第221回 全経簿記能力検定試験 2級 商業簿記 解説

第1問

1. 前期末に見越し計上していた家賃の未払額の仕訳

(借) 支払家賃	200,000	(貸) 未払家賃	200,000
----------	---------	----------	---------

再振替仕訳とは、前期末に行った仕訳の逆仕訳を行って適正な損益計算を行うこと

(借) 未払家賃	200,000	(貸) 支払家賃	200,000
----------	---------	----------	---------

2. 増資にあたって、株式を発行した場合には、資本金勘定を用いて処理する。ただし、問題文中に、資本金の計上額は会社法で認められる最低限度額とする。とあるため、払込金額のうち2分の1は、資本準備金勘定を用いて処理する。

なお、増資にあたって、株式の発行に要した諸費用は、株式交付費勘定を用いて処理する。

$$\text{資本金の金額} = 2,000 \text{株} \times \text{¥}3,000 \times 1 / 2 = \text{¥}3,000,000$$

$$\text{資本準備金の金額} = 2,000 \text{株} \times \text{¥}3,000 \times 1 / 2 = \text{¥}3,000,000$$

3. リース取引は、取引条件によりファイナンス・リース取引とオペレーティング・リース取引に分類される。本問は、ファイナンス・リース取引を利子込み法により処理する場合である。

- ・リース契約締結時の仕訳

(借) リース資産	900,000	(貸) リース負債	900,000
-----------	---------	-----------	---------

ファイナンス・リース取引の利子込み法では、リース料総額をもってリース資産およびリース負債を計上する。

$$\text{リース料総額} = \text{年間リース料} \text{¥}300,000 \times 3 \text{年} = \text{¥}900,000$$

【参考】

- ・リース料支払時(毎期末払い)の仕訳

(借) リース負債	300,000	(貸) 現金預金	300,000
-----------	---------	----------	---------

- ・決算時の仕訳：間接法による減価償却

(借) 減価償却費	300,000	(貸) リース資産減価償却累計額	300,000
-----------	---------	------------------	---------

リース資産¥900,000を3年で償却するため、

$$\text{¥}900,000 \div 3 \text{年} = \text{¥}300,000$$

本問はリース契約締結時の仕訳を示せばよい。

4. 新潟株式会社は、北海道建設株式会社に対し、店舗の建設を依頼し、その契約にもとづいて着手金5,000,000円を普通預金から支払った取引である。店舗はまだ完成しておらず、引渡しも受けていないため、この時点では建物として固定資産に計上することはできない。したがって、完成するまでの間は支払った金額を建設仮勘定として処理する。

5. 帳簿棚卸数量と実地棚卸数量を比較すると、帳簿数量200個に対し実地数量は180個であるため、20個の減少が生じている。この数量差は棚卸減耗にあたるため、棚卸減耗費を計上する。

$$\text{棚卸減耗費の計算} = 20 \text{個} \times \text{¥}3,000 = \text{¥}60,000$$

次に、実地棚卸数量180個について原価と正味売却価額を比較すると、正味売却価額@¥2,800は原価@¥3,000を下回っているため、商品評価損を計上する。

$$\text{商品評価損の計算} = (\text{¥}3,000 - \text{¥}2,800) \times 180 \text{個} = \text{¥}36,000$$

6. 当期決算において、当期純利益を算定した場合には、損益勘定の貸方残高を繰越利益剰余金勘定の貸方へ振替えをおこなう。
7. 前期法人税等確定額のうち未払分¥180,000とあるため、前期決算時に次の処理が行われていたと考えられる。

前期決算時の処理

(借) 法人税等	〇〇〇	(貸) 仮払法人税等	△△△
		未払法人税等	180,000

したがって、今回の納付は費用の計上ではなく、未払法人税等勘定を用いた負債の減少を意味する。なお、支払手段は納税準備預金であるため、納税準備預金勘定を用いて処理する。

第2問

①売上勘定→純売上高

売上勘定の貸方合計から売上戻りを差し引く。

【計算】 ¥9,174,000 - 売上戻り ¥176,000 = ¥8,998,000 (純売上高)

②仕入勘定→売上原価

仕入勘定の借方合計から仕入戻しと期末商品棚卸高を差し引く。

貸方の繰越商品は期末商品棚卸高を示す。

期末商品棚卸高 = ¥583,000

【計算】 ¥6,240,000 - 仕入戻し ¥245,000 - ¥583,000 = ¥5,412,000 (売上原価)

③損益勘定→当期純利益

【貸方合計】 純売上高 ¥8,998,000 + その他収益 ¥671,000 = ¥9,669,000

【借方合計】 売上原価 ¥5,412,000 + その他費用 ¥3,952,000 = ¥9,364,000

【計算】 ¥9,669,000 - ¥9,364,000 = ¥305,000 (当期純利益)

④繰越利益剰余金勘定→期末残高

前期繰越額 = 435,000

【計算】 ¥435,000 + 損益勘定からの振替え金額 ¥305,000 = ¥740,000 (期末繰越利益剰余金)

⑤期末貸借対照表→資本金の算定

※土地は売買なし → ¥1,200,000

【資産合計】 現金 ¥569,000 + 売掛金 ¥584,000 + 商品 (繰越商品) ¥583,000 + 土地 ¥1,200,000 = ¥2,936,000

【計算 (資本金)】 ¥2,936,000 - (買掛金 ¥346,000 + 借入金 ¥350,000 + 繰越利益剰余金 ¥740,000) = ¥1,500,000 (期末資本金)

⑥資本金勘定→期首資本金

期末資本金 = ¥1,500,000

当期増資 = ¥152,000

【計算】 ¥1,500,000 - ¥152,000 = ¥1,348,000 (期首資本金)

⑦期首貸借対照表→期首売掛金

【貸方合計】 ¥436,000 + ¥500,000 + ¥1,348,000 + ¥435,000 = ¥2,719,000

【借方合計 (売掛金以外)】 ¥482,000 + ¥542,000 + ¥1,200,000 = ¥2,224,000

【計算】 ¥2,719,000 - ¥2,224,000 = ¥495,000 (期首売掛金)

⑧売上総利益

【計算】 ¥8,998,000 (純売上高) - ¥5,412,000 (売上原価) = ¥3,586,000 (売上総利益)

第3問

1月1日 前月繰越高 960個 @ ¥2,480 ¥2,380,800

1月5日 掛け仕入

(借) 仕 入	4,224,000	(貸) 買掛金 (鳥取)	4,224,000
---------	-----------	--------------	-----------

1月7日 掛け返品

(借) 買掛金 (鳥取)	422,400	(貸) 仕 入	422,400
--------------	---------	---------	---------

1月12日 掛け売上

(借) 売掛金 (静岡)	5,600,000	(貸) 売 上	5,600,000
--------------	-----------	---------	-----------

1月18日 小切手による仕入

(借) 仕 入	5,376,000	(貸) 当 座 預 金	5,376,000
---------	-----------	-------------	-----------

1月22日 掛け売上

(借) 売掛金 (山梨)	8,500,000	(貸) 売 上	8,500,000
--------------	-----------	---------	-----------

1月24日 掛け返品

(借) 売 上	680,000	(貸) 売掛金 (山梨)	680,000
---------	---------	--------------	---------

T商品の移動平均法による商品有高帳の記入について

1月5日 掛け仕入	数量 1,600個 @ ¥2,640 金額 ¥4,224,000
仕入後の残高	数量 960個 + 1,600個 = 2,560個 金額 ¥2,380,800 + ¥4,224,000 = ¥6,604,800 単価 ¥6,604,800 ÷ 2,560個 = @ ¥2,580
1月7日 掛け返品(戻し)	数量 160個 @ ¥2,640 金額 ¥422,400
返品後の残高	数量 2,560個 - 160個 = 2,400個 金額 ¥6,604,800 - ¥422,400 = ¥6,182,400 単価 ¥6,182,400 ÷ 2,400個 = @ ¥2,576
1月12日 払出(売上)	数量 1,600個 @ ¥2,576 金額 ¥4,121,600
払出後の残高	数量 2,400個 - 1,600個 = 800個 金額 ¥6,182,400 - ¥4,121,600 = ¥2,060,800 単価 @ ¥2,576
1月18日 小切手仕入	数量 2,400個 @ ¥2,240 金額 ¥5,376,000
仕入後の残高	数量 800個 + 2,400個 = 3,200個 金額 ¥2,060,800 + ¥5,376,000 = ¥7,436,800 単価 ¥7,436,800 ÷ 3,200個 = @ ¥2,324
1月22日 払出(売上)	数量 2,500個 @ ¥2,324 金額 ¥5,810,000
払出後の残高	数量 3,200個 - 2,500個 = 700個 金額 ¥7,436,800 - ¥5,810,000 = ¥1,626,800 単価 @ ¥2,324
1月24日 掛け返品(戻り)	数量 200個 @ ¥2,324 金額 ¥464,800
返品後の残高	数量 700個 + 200個 = 900個 金額 ¥1,626,800 + ¥464,800 = ¥2,091,600 単価 @ ¥2,324

1月分のT商品の純売上高

$$¥5,600,000(1月12日) + ¥8,500,000(1月22日) - ¥680,000(1月24日) = \underline{¥13,420,000}$$

1月分のT商品の売上原価 (商品有高帳より)

$$¥4,121,600(1月12日) + ¥5,810,000(1月22日) - ¥464,800(1月24日) = \underline{¥9,466,800}$$

1月分のT商品の売上総利益 (粗利益) 純売上高 - 売上原価 で求める。

$$¥13,420,000 - ¥9,466,800 = \underline{¥3,953,200}$$

第4問

1.

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座借越	250,000	売掛金	600,000
当座預金	350,000		

売掛金 600,000 円を回収した時点で、当座借越残高が 250,000 円であったため、まずその返済に充当し、残額 350,000 円を当座預金として計上したものである。

すなわち、売掛金の回収額 600,000 円のうち、まず当座借越 250,000 円が減少し、残額 350,000 円が当座預金の増加となった。

よって、ウが取引の説明であると判断できる。

2.

借方科目	金額	貸方科目	金額
備品減価償却累計額	350,000	備品	500,000
普通預金	200,000	固定資産売却益	50,000

取得原価 500,000 円、減価償却累計額 350,000 円の備品を 200,000 円で売却した。

帳簿価額は 150,000 円であるため、売却代金 200,000 円との差額 50,000 円を固定資産売却益として計上したものである。

よって、アの取引と判断できる。

3.

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	80,000	電子記録債権	80,000

仕入先への買掛金について、受け取っていた電子記録債権を譲渡して支払った。

よって、エの取引と判断できる。

第5問

付記事項

仮受金の処理

(借) 仮受金	310,000	(貸) 前受金	310,000
---------	---------	---------	---------

決算整理事項

1. 現金の処理

帳簿残高 ¥657,000

実際有高 ¥675,000

差 額 ¥657,000 - ¥675,000 = - ¥18,000

実際有高に合わせるため、現金の帳簿残高を増加させる。

不一致の原因は、手数料を受け取った際に、金額を誤記入していたことが判明したため、受取手数料勘定を修正する。

¥95,000 - ¥80,000 = ¥15,000 受取手数料勘定を増加させる。

残額は原因が判明しなかったため、雑益勘定または雑損勘定を用いて処理をする。

(借) 現金	18,000	(貸) 受取手数料	15,000
		雑益	3,000

2. 売上原価の算定

(借) 仕 入	535,000	(貸) 繰 越 商 品	535,000
繰 越 商 品	560,000	仕 入	560,000

3. 貸倒引当金の見積もり

電子記録債権の期末残高 ¥490,000

売掛金の期末残高 ¥630,000

貸倒引当金の見積もりの金額

$$(\text{¥}490,000 + \text{¥}630,000) \times 2\% = \text{¥}22,400$$

貸倒引当金繰入額

$$\text{¥}22,400 - \text{¥}6,000 = \text{¥}16,400$$

(借) 貸倒引当金繰入	16,400	(貸) 貸 倒 引 当 金	16,400
-------------	--------	---------------	--------

4. 備品の減価償却費の計上

$$\text{¥}1,000,000 \div 8 \text{年} = \text{¥}125,000$$

(借) 減 価 償 却 費	125,000	(貸) 備品減価償却累計額	125,000
---------------	---------	---------------	---------

5. 売買目的有価証券の評価替え

帳簿価額 ¥612,000

評 価 額 ¥584,000

差 額 ¥612,000 - ¥584,000 = ¥28,000 (有価証券運用損となる)

評価額に合わせるため、売買目的有価証券勘定を減少させる。

(借) 有価証券運用損益	28,000	(貸) 売買目的有価証券	28,000
--------------	--------	--------------	--------

6. 消耗品の未使用高

(借) 消 耗 品	31,000	(貸) 消 耗 品 費	31,000
-----------	--------	-------------	--------

7. 手数料の前受高 (収益の繰り延べ)

(借) 受 取 手 数 料	39,000	(貸) 前 受 手 数 料	39,000
---------------	--------	---------------	--------

8. 家賃の前払高 (費用の繰り延べ)

(借) 前 払 家 賃	40,000	(貸) 支 払 家 賃	40,000
-------------	--------	-------------	--------

9. 利息の未払高 (費用の見越し)

年間利息 借入金残高 (精算表より) $\times 4\% = \text{¥}30,400$

当期の経過月数 7月1日~12月31日の6か月

当期の未払利息 $\text{¥}760,000 \times 4\% \times 6 \text{か月} / 12 \text{か月} = \text{¥}15,200$

(借) 支 払 利 息	15,200	(貸) 未 払 利 息	15,200
-------------	--------	-------------	--------

10. 未払法人税等

法人税の計算 当期の課税所得 ¥550,000 \times 税率 30% = ¥165,000

(借) 法 人 税 等	165,000	(貸) 仮払法人税等	85,000
		未払法人税等	80,000